

高知県の公立学校における生徒数の推移

—公立中学校及び公立高等学校の状況—

岩崎保道

高知大学 人文社会科学系 教育学部門

Variations in the Number of Students in Public Schools in Kochi Prefecture

—Situations of Public Middle and High schools—

Yasumichi Iwasaki

Kochi University, Humanities and Social Science Cluster, Education Unit

Abstract: This paper analyzes the variation in the number of students of public schools in Kochi Prefecture, and clarifies its trend. The declining birthrate is a nationwide phenomenon, but Kochi Prefecture is said to have the most serious declining birthrate and aging population, and the number of children has been decreasing. In such a situation, this paper is focused on the variation in the number of students of public schools in Kochi Prefecture.

キーワード:公立学校, 生徒数, 高知県

Keyword: Public School, Number of Students, Kochi Prefecture

はじめに

本稿は、高知県における公立学校の生徒数の推移を分析することにより、その動向を明らかにすることを目的とする。特に地域別にみた生徒数の動向に注目した。

学校は教育を担う公共性のある事業であり、地域社会に寄与する役割は大きい。しかし、少子化などにより、全国的に学校の統廃合が進んでいる。学校は人を育て、地域の形成に重要な役割を果たす機能を持つ。そのため、学校の消滅は地域の活気を奪うマイナス要因になることがある。特に、この問題は地方都市や郡部においては深刻な問題となっている。一方、教育事業の運営には多額の維持管理費が必要になり、限りある財源を有効に活用しなければならない課題もあり、難しい問題が内包されている。

そのような状況のもと、高知県における公立学校の生徒数の推移に焦点をあてた。同県を研究対象とする理由は、少子化の先進県と言われる地域の動向を分析する意義があると考えたからである。高知県の高等学校（全日制）における2013年度の入学定員充足率は79.66%（入学志願者4,751名）であったが、2016年度の同率は79.13%（入学志願者4,461名）に減少した¹⁾。

考察の展開として、公立学校の生徒数等の動向（全国）を踏まえ、高知県における中学校及び高等学校の地域別生徒数の推移を概観する。

1. 公立学校の生徒数等の動向（全国）

2006～2016年度における全国の公立中学校及び公立高等学校の生徒数と学校数の推移をみてみよう。生徒数及び学校数ともに減少傾向にある。2006年度及び2016年度における生徒数と学校数を比較すると、次のようになる。公立中学校の生徒数は5.6%、学校数は6.2%減少した（図1）。公立高等学校の生徒数は7.9%、学校数は11.3%減少した（図2）。

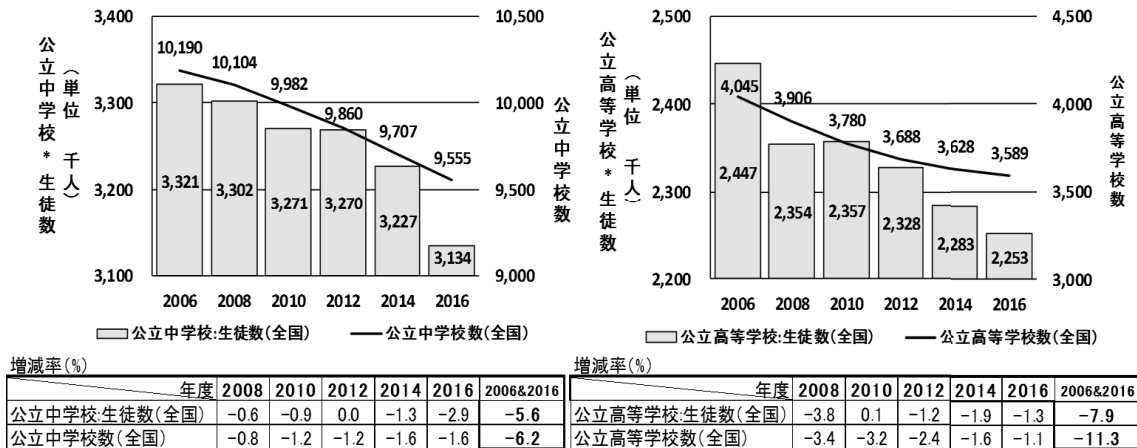


図1 公立中学校・生徒数の推移（全国）

図2 公立高等学校・生徒数の推移（全国）

（出典）総務省統計局,e-Stat（高等学校は全日制,定時制）

2. 公立学校の生徒数等の動向（高知県）

2.1 高知県における公立中学校及び公立高等学校の生徒数の推移

（1）高知県の地域別人口

高知県の人口を4地域に区分することにより、地域別の分布を把握する。図3の通り、高知県の人口は高知市を含む中央に集中しており(約7割)、その他の地域(幡多、高幡、安芸)の人口割合は約3割にしか過ぎない。これは、高知県における産業や都市機能が中央に集積している背景が考えられる。

4地域の2005年と2015年の増減率をみた場合、中央は-5.9%であるが、その他の3地域は減少率が14%以上と非常に高く、地域別に大きな格差が生じている。

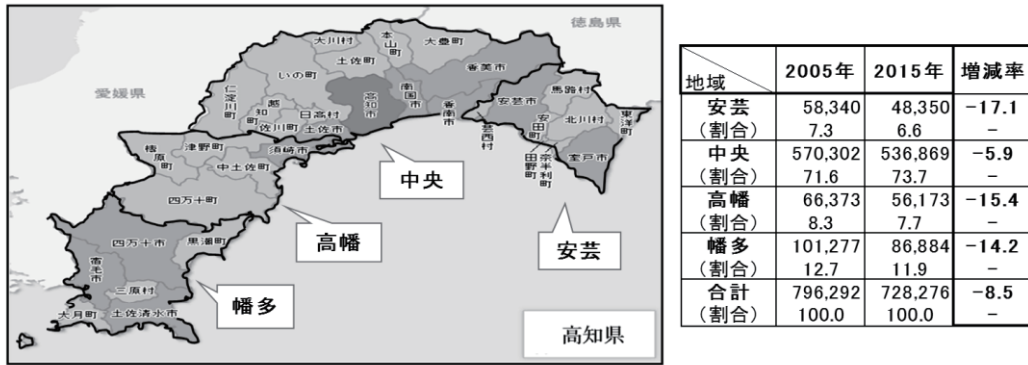


図3 高知県の地域別人口 (出典) 総務省 (2016) 「国勢調査」

(2) 高知県における中学校及び高等学校の地域別生徒数 (国立学校、公立学校、私立学校) の推移

高知県における中学校及び高等学校の地域別生徒数の推移をみてみよう。中学校及び高等学校ともに減少傾向にあり、2006年度と2016年度の全体を比較すると、前者は16.2%、後者は12.3%減少した(図4、図5)。そのうち、中学校における地域別の減少率は、中央(-11.6%)が全体(-16.2%)より低く、安芸(-34.7%)及び高幡(-27.6%)が高かった。また、高等学校は、高幡(-7.7%)及び中央(-8.7%)は全体(-12.3%)より低い、安芸(-46.6%)及び幡多(-22.9%)が高かった。このように、中央とそれ以外の地域の格差が大きい。中央は緩やかに減少しているのに対し、安芸及び幡多の減少は著しい。

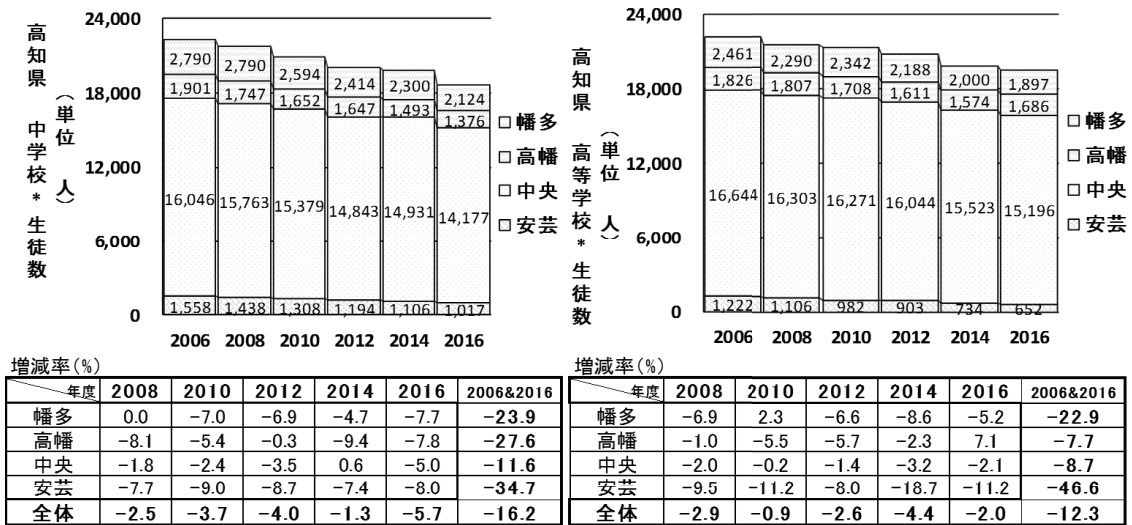


図4 中学校・生徒数の推移 (高知県)

図5 高等学校・生徒数の推移 (高知県)

(出典) 高知県 (各年度) 「学校基本調査」 (高等学校は定時制を含む)

2.2 高知県における公立中学校及び公立高等学校の生徒数の推移

2006～2016年度における高知県の公立中学校及び公立高等学校の生徒数と学校数の推移をみてみよう。生徒数及び学校数ともに減少傾向にある。2006年度及び2016年度における生徒数と学校数を比較すると、次のようになる。公立中学校の生徒数は17.9%、学校数は9.8%減少した(図6)。公立高等学校の生徒数は17.5%、学校数は2.6%減少した(図7)。

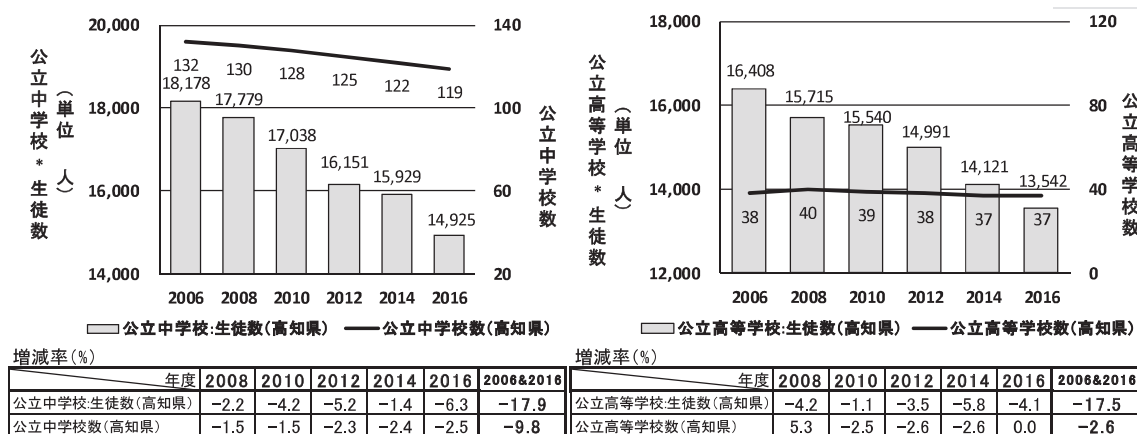


図6 公立中学校・生徒数の推移(高知県)

図7 公立高等学校・生徒数の推移(高知県)

(出典) 高知県(各年度)「学校基本調査統計書」(高等学校は、定・通信制を除く)

小括

上述の通り、高知県における公立中学校及び公立高等学校の生徒数の減少傾向を明らかにした。特に、2006年度と2016年度の動向を比較した場合、双方の減少率は約18%と大きい(図4,図5)。この背景には、地域別の人口動向が大きく関係していると思われる。図3でみたように、中央は-5.9%である一方、その他の3地域は減少率が14%以上と非常に高かった。また、図4,図5では、高知県における中学校及び高等学校の地域別生徒数の推移をみたが、このデータをみても中央と、その他の地域との格差が生じていた。

図1,図2でみた通り、公立中学校及び公立高等学校の生徒数の減少は全国的な傾向ではあるが、2006年度と2016年度の動向をみても、その減少率は8%を超えていない。このことから、高知県においては喫緊の重要課題として、抜本的な少子化対策が求められることと、それに加えて、地域的な偏在を緩和する対策が講じられなければならない(注1)。

[引用文献]

1) 高知県(各年度)「学校基本調査」

(注1) 高知県では、2007年に高知県少子化対策推進本部が設置され、「少子化対策の基本的な方向」として「子どもを生み育てやすい環境づくり」の目標のもと、様々な対策が講じられている。

平成29年(2017)10月12日受理

平成29年(2017)12月31日発行